

竹内元一 著
桶狭間の戦い 前夜の真実
出版社 甲子園出版
電子本 900円+税
印刷本 2400円+税
アマゾンのサイトで「**竹内元一桶狭間**」で検索
(書店にはありません)

桶狭間の戦い 前夜の真実

竹内元一 著



300年来の定説が、いま覆る！

戦い前夜、今川義元は、
「沓掛」ではなく「大高」にいた。

甲子園出版

桶狭間の戦いの真相究明が進まなかった理由

永禄三年（1560）の桶狭間の戦いは、460年たっても真相究明に至っていない。その理由は「戦い前夜、義元は沓掛に居たはず」という江戸時代の間違った定説に「迂回奇襲説」や「正面攻撃説」等ほとんどの先行研究が囚われていたからであった。戦い前夜の義元の居場所が間違っていたため、真相究明が進まなかった。

戦い前夜、義元は（沓掛ではなく）大高に居た

一級史料の『信長公記』天理本などの書写時期が古い写本類は「戦い前夜、義元は大高に居た」と読めることを、著者が初めて解明した。これが史実であった。

移動のため後退をやめない義元を、信長は追撃した

桶狭間の戦いは、織田軍二千が、今川軍三千以上の首を取る圧勝であった。なぜ、このようなワンサイドゲームが起こったのか。それは、漆山から池鯉鮒（知立）に移動・後退中だった今川軍を、織田軍が追撃したからだった。撤退戦・追撃戦の形になったのである。

なお、この新説「後退追撃説」の発案者はかぎや散人氏であり、著者は、新説名を命名したのと、新説が正しいことを歴史的に証明した。